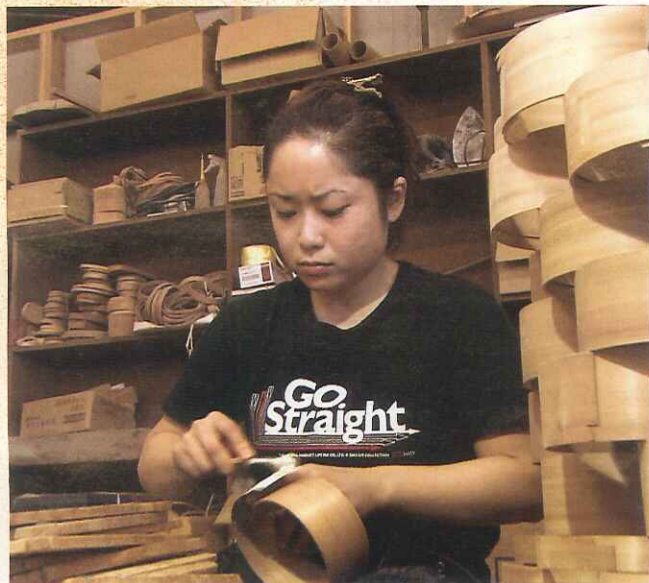


日本の伝統・文化を継承する若者たち

# 明日への扉

Door to Tomorrow



Eri Nakazawa

1982年秋田県生まれ。幼いころからのづくりが大好きで、短大では建築を専攻。その中で木材に興味を抱き、卒業後に大館曲げわっぱづくりの第一人者である柴田慶信氏に入門。以来、研鑽の日々を送る。



大館曲げわっぱ(おおだてまげわっぱ)

秋田杉の薄板を曲げてつくられる、秋田県大館市の伝統的工芸品。木こりたちが弁当箱をつくったのが始まりとされる。一時プラスチック製品に押されたが、本物志向の風潮に相まって弁当箱やお櫃などの愛好者が増加している。

日本の伝統・文化を継承する若者たちを紹介する映像ドキュメンタリー「明日への扉」をぜひご覧ください。

MOVIE WebやTVなどでお楽しみいただけます。

Web版  
パソコンやタブレットでもご覧になれます。本紙掲載以外に、多数の若者たちをご紹介します。

アットホーム明日への扉  検索



TV番組  
ディスカバリーチャンネル(CS) 冠番組  
「アットホーム presents 明日への扉」放映中  
毎週金曜日 22:53~23:00



ビジョン  
ANA国際線「SKY CHANNEL」にて放映中

NEW!! 最新号のご案内 **好評公開中**

No.066 / 和菓子職人 中島一氏

## 大館曲げわっぱ職人

仲澤 恵梨 氏

ふるさとの誇りを  
自らの手で未来に繋ぐ。

秋田県北部、大館市に古くから受け継がれてきた大館曲げわっぱ。特産の秋田杉からつくられるそれは、吸湿性や殺菌効果に優れ、お櫃や弁当箱などに適した実用品だが、日本の伝統工芸品として海外にもファンが多い。仲澤恵梨さんはふるさとの誇りを守るべく、日々修業に励む若き職人。数ある中でも、師匠がつくる逸品に心引かれてこの世界に飛び込んだ。

きっかけは？

仲澤「大館曲げわっぱはずっと身近な存在でしたが、就職を考えていたときに何とも言えない手触りの品に出合ったことが、私の行く道を決めました。これをつくった人の下で修業をしたいと思ひ、弟子入りをお願いしたんです」

温もりある手触りや良い香りと並ぶ、大館曲げわっぱの魅力は木目。他

の杉材に比べて節が少なく、年輪が均一な秋田杉は高級木材として知られ、中でも樹齢200年を超える木目はひととき美しい。仲澤さんはそんな秋田杉の薄板を巧みに曲げ、商品を生み出していく。

作業工程で最も重要となるのが「はぎ取り」というのりしろをつくる作業。曲げた板の両端を重ね合わせるときにぴったり一枚分になるよう、厚さ数ミリの板をさらに薄く削るとりわけ高度な勘と技が必要なの工程を任せられるようになったのは、修業五年目だったという。

もちろん、神経を行き届かせるのは見た目だけではない。大館曲げわっぱは使い勝手も重要。例えば、師匠が独自に考案したお櫃は底の隅が丸く仕上げられている。これはご飯粒をしゃもじで取りやすく、そして洗いやすくしてほしいという声に応えたもの。「自分で買うという気持ちで仕上げ

目標は？  
「一度は弟子入りを断られたが、手にした瞬間感じた温もりが忘れられず、やっこの思いで夢を叶えた若き職人。その情熱が途絶えることは決してないだろう。明日への扉を開け、また一歩、夢に近づく。」

「質にはまだまだ遠いのが現状です。そういう意味では、死ぬまで修業だと思っています」

「一度は弟子入りを断られたが、手にした瞬間感じた温もりが忘れられず、やっこの思いで夢を叶えた若き職人。その情熱が途絶えることは決してないだろう。明日への扉を開け、また一歩、夢に近づく。」

MOVIE MORE!!  
ふるさとを愛し、その伝統継承に力を尽くす姿を動画でご紹介しています。ぜひご覧ください。

※2012年10月取材。掲載内容は取材当時のものです。